



いきものふれあいの里

「陶史の森」 だより

土岐市ネイチャーセンター ☎ 5144

眠りから覚めた大賀ハス

二十四節季でいう「小暑」の季節は、ハスの花が開花する時期です。ハスという名前は、花床が「ハチの巣」に似ているため「はちす」を略したことに由来するものです。

有名な「大賀ハス」は、縄文時代の地層から掘り出された種を、大賀博士が見事に開花させ、全国に広げました。私たちは、植物の種は、水と空気と一定の温度という3条件がそろえば発芽すると学校で習いましたが、おそらく大賀ハスは、2千年という気の遠くなるような長い眠りから掘り出された後に、発芽の条件が満たされたのでしょう。

では、植物はその3つの条件がそろえば必ず発芽するのでしょうか。例えば、アサガオの種は地面に落ちたときに3つの条件を満たしていても、発芽しません。その理由は、発芽のためにはもう1つ大切な条件があるからです。それは発芽の前にゆっくりと休むことで、これを「休眠期間」といいます。種は寒い冬を越し、休んだ後に条件がそろうと、ようやく発芽のスイッチが入るのです。私たち人間も、眠ることは生きていく上で欠かせません。自然は、新たな行動を起こす前には、ゆっくりと休むことが大切だと教えてくれているのかもしれない。

森の日記

陶史の森写生会 5月3日(火)・4日(水)

今年も恒例の『陶史の森写生会』を行いました。さわやかな新緑に包まれて、3歳になる小さなお子さんから小学校高学年の児童まで、大勢の方の参加があり、園内の思い思いの場所で動物などを描いていました。作品をネイチャーセンターに2週間展示した後、駄知幼稚園のかかむこゆきさんのほか、13人を表彰しました。



学校ぐるみで自然を満喫 6月6日(月)

駄知小学校の全校児童(約450人)が、木々の緑が増した陶史の森でオリエンテーリングを行いました。1年生から6年生の縦割りグループが、各所に設けられた課題に挑戦していました。写真は『はっぱぶえで音をならそう』という課題に取り組んでいるところです。低学年の児童が高学年のまねをして、ほおを膨らませながら「はっぱぶえ」を鳴らそうとしている、ほほ笑ましい姿がありました。

教室のご案内

7月

- 草花標本づくり教室(要申込・定員20人)
7月3日(日)午前9時~11時30分
植物の採集・観察と標本作り
- 夏の天体教室(要申込・定員20人)
7月23日(土)午後7時~9時
土星の観察(雨天中止)
- バードウォッチング(自由参加)
7月24日(日)午前9時~11時30分
夏の野鳥を観察(雨天中止)

8月

- 昆虫教室(要申込・定員20人)
8月7日(日)午前9時~11時30分
昆虫の採集・観察と標本作り
- バードウォッチング(自由参加)
8月28日(日)午前9時~11時30分
夏の野鳥を観察(雨天中止)

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。